

広島市こども文化科学館 ～地域とともにあゆんで30年～

松本佳也

〈広島市こども文化科学館 〒730-0011 広島市中区基町5番83号〉

e-mail : matsumoto@pyonta.city.hiroshima.jp

広島市こども文化科学館は、国内初となる「こどものための博物館」として1980年に開館し、おとしに30周年を迎えました。プラネタリウムと科学展示、教室事業を中心に運営していますが、今回はおもに天文関連の事業・展示などをご紹介します。

1. 施設概要

広島市こども文化科学館は、広島の特徴の一つ「原爆ドーム」のほど近く、旧広島市民球場のすぐそばにあります。現在、旧市民球場では解体作業が続けられており、この原稿が発行される頃にはほぼ終わっていることでしょう。

1980年5月に開館した当館は、以来地域の科学普及・天文普及の中心施設として活動してきました。当時国内最大級であった20mドームのプラネタリウムは、現在でも当館の代表的な事業として認知されています。

常設展示は科学体験展示が中心で、開館当時は参加体験型展示の先駆けとして、多くの視察があったと聞いています。その後三度の部分リニューアルを経て、常設展示はほぼすべて入れ替わりました。

また当館はたいへん多くの教室事業を行っていることも特徴としており、定例的なものだけでも毎年150講座以上実施しています。このほかに、三つのクラブ活動やサイエンスショー、250席のホールでのイベントなど、平成以降各地にできた科学館と比べれば決して大きな施設ではありませんが、こどものための科学と文化の施設として、多様な事業を実施しています。



図1 建物全景。正面玄関左側はこども図書館。

2. プラネタリウム

プラネタリウムの主投影機は、ミノルタカメラ（当時）製のMS-20ATで、直径20mのドームスクリーン用に新たに開発されました。機械式の惑星投影機を備える旧来型の形式（ツアイス型）で、小型化が進んだ現在にあっては、本体の大きさでは国内最大級です。開館以来稼働し続けていますが、旧来型の形式はプラネタリウム本来のしぐみがわかりやすく、機器そのものに教育的価値があること、投影する星空の美しさなどもあり、大切に使用していきたいと考えています。

またこの機種は、オート投影機能の黎明期に生まれた機種です。同社にとって、サンシャインP



図2 プラネタリウムホール内。



図3 プラネタリウムクラブの番組制作風景。

ラネタリウム（当時）に続き2台目のオート機の設置でした。そのような当時の状況下、プラネタリウムの番組を作るという行為自体が理解されず、予算が全くつかなかったとのこと。苦難の末、開館2作目（1980年9月公開）から、プロダクションによらないフルオート番組の自主制作を開始しました。素材制作には、地元の劇団や作家、職員の知人、マスコミ関係者などのご協力をいただきながら、企画や投影機の配置、自動制御プログラムや投影部材の作成などは職員の手によります。

開館以来、季節ごとに新作を公開していますが、現在でも年4作品のうち3作品は自主制作しております。最近では機器のデジタル化もあって番組を自作するプラネタリウム館が増えてきましたが、フルオート番組の自主制作は当館プラネタリウムの大きな特徴となっています。スライドが中心の時代には、全国的に見てもたいへん多くの補助投影機を活用した演出をしてきましたが、現在は2年半前に設置した簡易型の大画面のプロジェクターが映像演出の中心となり、映像制作の習得に取り組んでいるところです。

その他の投影はほとんどが生解説の投影で、学校向けの学習投影や一般向けの星座解説投影に加え、各種イベント投影やリラクゼーション投影にも積極的に取り組んでおり、館の名称から利用を敬遠する向きもある大人の需要開拓にも努めています。

3. プラネタリウムクラブ

参加体験性を特徴とする当館にあって、プラネタリウムだけは「見る」ものであって「参加体験」の要素がほとんどありません。そこで一計を案じて始められたのが、「プラネタリウムクラブ」です。

開館翌年の1981年に中学生を対象として始まったこのクラブは（現在は小5～中学生対象）、通常営業用と全く同じ機器・設備を使用してフルオート番組を制作することを特徴としており、当館の番組制作のノウハウをそのまま活用した事業です。企画、シナリオ作成、ナレーション、作画、音声編集、映像作成、自動制御プログラム作成まで、すべての作業を数名で分担して作業し、秋の発表会で投影します。

30年余でプラネタリウム関連機器は少しずつ更新されてきましたので、現在ではシナリオと作画以外のほとんどの作業にパソコンを使うようになりましたが、現代っ子たちは臆することなくあつという間に使いこなしていきます。

4. 太陽望遠鏡

天体観測設備を基本的にもたない当館ですが、唯一の常設観測設備が、太陽望遠鏡です。五藤光学製で、ヘリオスタットにより太陽を追尾しています。望遠鏡本体は口径15 cmの屈折式で、カメ



図4 太陽望遠鏡内部，展示部，ヘリオスタット。

ラなどを通さず太陽光を直接観察します。途中光路が分配され、白色光による太陽面全景とプロミネンスに加え、太陽スペクトルをリアルタイムに観察できるようになっています。

白色光の太陽面は、壁面に埋め込まれたスクリーンの裏側から投射する仕組みになっており、解像度はやや低いものの、のぞき込む必要がないためたいへん見やすくなっています。

5. 広島隕石

2003年2月に広島市安佐南区の(株)エバルス広島物流センターに落下した、「広島隕石」の实物を展示しています。Hグループの普通コンドライトで、2011年12月現在、広島県内で発見された唯一の隕石であり、国内で最も最近発見された隕石でもあります。

この展示では、隕石が激突し突き破った屋根材、天井材、パイプを、同社のご厚意により切り出して隕石と併せて展示しており、落下現場の様子を少しでも感じていただけるようにしています。

6. おわりに

このほかに、年数回の天体観望会や日食観察会などの特別イベントも随時開催しています。さまざまな企画など実施しておりますが、当館の事業は広島大学宇宙科学センターなどの専門機関や地元天文活動家の方々など、多くの方々のご協力



図5 広島隕石展示。

に支えられて、成り立っています。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また、今後もますます連携の輪を広げ、夢を語り夢を実現する仲間が増えていけば楽しいことと思っております。どうぞお気軽にご連絡いただきまして、広島天文普及を共に盛り立てていただけましたらうれしく思います。

広島市こども文化科学館

〒730-0011 広島市中区基町5-83

Tel : 082-222-5346 Fax : 082-502-2118

<http://www.pyonta.city.hiroshima.jp/>

○休館日：月曜日 祝日の翌平日 年末年始
その他休館日あり

○入館料：無料

○プラネタリウム観覧料：大人500円 小人250円

○アクセス：市内電車「原爆ドーム前」電停から約300m